

私は都市イラストレーションを描きますが、
発電所は次世代の施設か未来の想像施設、または
風力や太陽熱・太陽光発電などの自然エネルギー発電施設を描きます。
原発を生活電源として肯定している風景は3.11以前には描いておりましたが、
今はもう描きません。
(廃炉やその人材育成のお手伝いには、いつか関わる事が出来れば幸いです)

また、集团的自衛権に賛成するお仕事もいたしません。
ですが自国防衛のみに特化したものや
日本国民のために頑張っている自衛隊の皆さんを
応援させていただけるもの、そして
他の憲法改正のもの(人々の心を豊かにするもの、人間愛に溢れるもの)は
進んで描きたいと思っております。

この事をお伝えすることで(何かしらの方向性の意志を表明してしまう事で)
複数のクライアント様が私にお仕事を下さらなくなるかもしれないという
恐怖が生まれました。

その恐怖はイラストレーターで居ることさえ困難になり(経済依存の
高い職業なので)、廃業に至るかもしれない恐怖へと移行しました。

ですが、3.11以後にその事を言わなければ
私の職業が嘘偽りの物になってしまうかもしれないと感じてしまいました。

もう何十年も前、「絵を描くこと」を職業にしたあの時、
「何を描くのか?」と言う事に対してこれほど思い悩む日々が来るとは
思ってもいませんでした。

私が描きたいものは人々の悲しみや苦しみを継続させる絵ではありません。
人と人が殺し合うことを認めてしまう法律を推進する絵でもありません。
私が描きたいのは、
「人々が優しくなれるもの」
「人々に寄り添う幸せを感じられるもの」
「人々のために頑張っている人々を応援できるもの」であり、
お仕事では
文章や写真では伝えにくい事を絵で分かりやすく的確にお伝えできるもの
デザインやレイアウトの合間に添えられてホッと出来るもの
ご依頼主様のイメージを視覚的に豊かに表現できるもの
等などです。

プロに徹するとは
あまねく人々に受入れてもらえることの代償として
批判を恐れ生活利益のために黙するなどして、社会に従属してしまうことなく、
社会に寄り添い、その良し悪しを判断し、皆様とともに歩むために
自分が培ってきた技術の腕をふんだんに振るうことだと思っております。

☆メモ☆

従軍画家が描いた絵が今でも残っています。
誰が描いた絵なのか、作者の名も分かります。
ですが依頼主は誰だったのか、その組織名までは分かっても
その組織で発注された方が誰だったのかまでは分かりません。
発注元の個人名は忘れられても 描いた画家の名は残ります。

私達一人一人が過去を学ぶ事を良しとし、
現在の人々の幸せのみならず、未来の人々の幸せまでも
願う事が出来たならば、
人類が歩むべき道は自ずと決まるだろうと思っています。

人類は時代が進むにつれ、
少しずつ優しく穏やかになっているのだそうです。
時代ごとの人口に対する殺人の比率が確実に少なくなっているという
学説を耳にしました。
例えば、
何千万人も死者を出したあの悲惨だった第二次世界大戦も
古代の人類と比較すると人々が殺されてしまった比率は遥かに
低くなっているのだそうです。
もし二次大戦の死者比率が古代（古代ギリシア・古代ローマ辺り？）並みであったならば
何倍何十倍もの死者数になっていただろうとの事でした。
それでも未だに続く、深く無慈悲な悲しみと苦しみを生み出してしまった戦争は
もう二度と御免です。
戦争さえ撲滅できれば人類の優しさと穏やかさは益々加速するのだらうと思います。

メダカはどこに行ったのか
私たちが遊んだあの綺麗な小川はどこに行ったのか
沢山の生きものであふれていた岩場の浜辺はどうなってしまったのか
思いを馳せてみてください
私達の大切だった古里がどうなってしまっているのか
思いを馳せてみてください。

温暖化による？気候異変が年を迎える毎に厳しくなっている事を
実感しています。
風薫る、一年でいちばん潤いそよ風の月「臯月」も
2015年では、連日30℃前後の「真夏日」を迎えることとなりました。
私はその事がとても悔しくて悲しくて大きな不安となっています。
このまま人類が豊かさを求め続けて盲進してしまうと
地球が人類を養えなくなる日が来るのだそうです。
そしてその日はそんなに遠い日の事ではないのだそうです。
つまり、私やあなたが生きていうちにやって来るのだそうです。

世界の人々一人一人はとても優しい人たちなのに
「国」という単位になった途端にまるで駄々を捏ねる子供の様な
存在になるのは何故なのかいつも不思議に思っています。

まだまだ人類は幼く、未熟なのかもしれません。

もし私が、3.11以前に、名の知れたイラストレーターになっていたとしたら、
その後の私はどうしていただろう？
大切なクライアント様が
現代の経済産業を強く推し進める方達であつたら、
私はどうしていただろう？

何ぞ傷まんや 亦た各々その志を言うなり
(他者の言葉に傷つかなくても良いのです。
皆それぞれ思い思いの志を述べているだけなのですから。
あなたもまた自由にあなたの志を述べると良いのです。)

徳は孤ならず 必ず隣あり
(徳を行っているかぎり、人は決して孤立するものではない。
必ず共鳴者が現れる。
もし孤立してもそれは一時的なものだ。)

沂(き)に浴し、舞?(ぶう)に風して、詠じて帰らん。
(わたしは沂水《きすい》のほとりの温泉につかり、
舞?のあたりの美景をめ、
夕涼みの風にあたって歌を唄いながら帰って来たい。)
・沂は曲阜(きょくふ)に近い川の名で、ほとりに温泉があるという。
・舞?は雨乞いの祭りをする祭壇で風景の良い所。

今我れ楽しまずんば、日月其れ除(す)ぎん。

月白く風清し。此の良夜を如何せん。

月出でて皎たり、佼人僚たり。
(つき いでて きょうたり、 こうじん りょうたり)
(今宵は美しい月が出ている、 月明かりに輝らされる君はなお美しい)

終りの6つの言葉は
「中国古典名言事典」諸橋轍次著：講談社学術文庫より引用

2015/05/25 23:50

※私はまだまだ未熟者で、物事を知らぬまま語っています。
迷いもまだまだございます。
この文章も、新たに見知らぬ何かに気づくたびに変わってゆくと思います。